



TITLE:

地理教材としての地形圖(九):[平]
]壤南方の準[平]原=樂浪準[平]原

AUTHOR(S):

中村

CITATION:

中村. 地理教材としての地形圖(九):[平]壤南方の準[平]原=樂浪準[平]原.
地球 1925, 3(4): 464-469

ISSUE DATE:

1925-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/182847>

RIGHT:

Lagoon のある處にまはるる Cartagena 港である等と趣味を以て眺めつゝ進む、夕頃は風も和き、海上再油をながした如く静かになつた、何時しが出た三日月は銀波を照らして陸岸の燈臺近く光り、行き過ぐる汽船のひかりも何さなく靜の如く、湯上りの涼氣に眺める、爽快であつた。

【九日、晴】

今日も快晴猶、西班牙の海岸を走つて居る、連山は昨日よりも近く觀えて、西班牙の特徴かと思はるゝいでたちである、高峯には雪を戴いて居る、船長の話に依るま之が Sierra Nevada である、海圖で調べるま何れも一萬呎以上の Ceiro

地理教材としての地形圖 (九)

平壤南方の準平原——樂浪準平原

參照圖 五萬分一 中和(平壤三號) 岐陽(平壤七號)

二十萬分一 平壤(朝鮮總督府編、小林發賣)

ペネプレーン

準平原と云ふデーヴィスの作つた言葉がさうでもなさうな地形を現はすのに濫りに我が國の地學界で用ひられて居る様な氣がする。山崎博士が天龍下流地方の臺地の基底の過去の準平

Mulatacen, Pico Velea, Cerro Calallo 等である、晴天にかすみて見ゆる景色は美しい、汽船の往來も段々多くなり、氣温も段々暑くなつて来る、朝には七十五度を示して居た、晝前になり愈ッブラルター海峡に差しかゝつて來た、歴史的にも地學上にも面白い處なので希望を屬して居た處だけ趣味深く眺める。

原を説かれた(地質學雜誌第十二卷四)以來、大抵今では彫刻されてゐるが或る地質時代には準平原であつたといふ過去の準平原を説いた記述のみである。地質學に堪能でない人達に執つては今

眼前に見ることの出来る準平原を示して欲しいと云ふ希望を懷かすには居られない。

準平原の地形は決して面白いものではない、僅かの起伏はあるが老耄境の磨り削られ盡した平原——それを見たいと云ふ若い人達の望みは世の常の人情に合はぬ様な氣もされる——そんな地形は何處ぞで出逢つて居ても人の騒いで居る目的物だとも思へないから自分から準平原であることに氣の付くのは寧ろ不可有の事に屬する。

私は十六七年前から幾度か京義線で平壤を通過する場合や、平壤炭田の寺洞炭坑を見に行つたり又は平壤の牡丹臺から東から南の方を眺めたりした場合に、平壤のすぐ南方には赤土で被はれた平坦な廣い土地があつて其處には千六百年乃至二千年前の漢民族の文化を遺した樂浪時代の大古墳が散在してゐて古い時から開けた平地であるとは感じた。(咸陽關の北東隅に近い大同江南畔には古墳群が示してある)又牡丹臺からの風物を現はすに俯瞰長江、遠臨曠野だとか遠岫園野だとか、迥野平如掌だとか

低岑遠似眉だとか大野東頭點點山だとか云ふ句を用ひてあるのを見て如何にもよく平壤四近に曠野があり之を圍んであまり高くはないが點々と瘤の様な山の群がある地形を表はしてゐると感心もした。然しその曠野が準平原であるとはつひ近頃まで氣が付かなかつた。それは餘りにこの曠野の赤土の下に隠された複雑な地體構造の解釋にのみ私が没頭したにも因るのではあるが。

此の曠野は平壤の東方では一部は大同江の北にも互つては居るものゝ大體は大同江の南畔に位し大同郡及中和郡に屬する。東西三十二軒、南北十六軒で東西兩端に近く南北の幅が稍狭まつてまづ橢圓形に近い外廓を持つて居る。京義線は南北に走つて此の橢圓形の低地を兩斷して居り、鐵路に沿うては準平原の北端は平壤であり南端は中和である。平壤中和の中間驛である力浦の西南西五軒には海拔約九十三米に達する高まりはあるが一般には二十五米内外の高距を持つて居る。北にある戊辰川といひ南の昆陽江

(共に大同江の一支流である)と云ひ川其の物は小さいが水の分量に比して廣い冲積地を其の兩岸に餘して其の中をかなり著しく屈曲^{デシグナ}して居る。

これ等小流の特徴は川岸が六米位の土の崖となつてゐることである。これは上流から流れ下る水の普通の浸蝕によつて出來た



第一圖 寺洞西南中の洞(中和圖幅)
附近樂浪準平原を望す

崖ではなくて大同江を溯り來る高い潮汐がこの支流をかなり遠くまで溯るからである。私は潮

時を考へてうまく戊辰川の下流の部分を徒涉したことが一度ならずあつた。——この谷地は地形上成熟したもので、冲積地と丘陵地とを實際上に劃することの出來ない場合が少なくない。

中和岐陽の兩圖幅中この準平原には殊更數多くの補助曲線を描いてある爲めに中和圖幅の南東部にある山地との對照が少からず著しからぬものになつて居るが補助曲線を除いて此の圖を見なければそこが緩き波狀の平地であることがよく判ると思ふ。挿入した二葉の寫眞でこの準平原の老いた容貌を見て頂きたい。

この準平原は主に寒武利亞紀より奥陶紀に互る石灰岩から出來て居る。日本内地にはかうした廣い石灰岩地は見出されないが朝鮮や滿洲には寒武—奥陶に互る厚い石灰岩がある爲めに廣い石灰岩地が各處に在る。準平原の北境に近く略大同江に平行して北東寺洞の南方から中和圖幅に入り來り將進里の北で戊辰川に切られ、再び其の川の南から、起つて南西に走り五峰山(五九米)に互る低き丘陵の一脈がある。この丘

陵は下部寒武利亞紀のチョコレート色の頁岩から出來て其の北側にはこの古い岩層の推し被せを受け

た含炭二

疊紀の砂

岩頁岩の

疊層があ

る。かゝ

る下部寒

武利亞紀

の頁岩層

や二疊紀

層は準平

原化に際

して石灰

岩よりも

雨水の爲

めに溶解され難いと見えて殘留塊即ちヘルトリ
ング(Hartling)となつて準平原上に連丘を作つ
たのである。準平原の南界にも中和を東西に貫



圖二第 戊辰場の北の方より北西に向ひ
樂浪準平原を望む

く下部寒武利亞紀の頁岩より成り高さ百八十米に達する連丘がある。これも準平原上の殘留物と考へることが出来る。何故ならば此の丘陵の南にも猶胴體面^{ルンペル}を表はした少許の石灰岩地があるからである。細かく見れば準平原中に柳新里の南方に於ける五十九米に達する岡の如き薄弱な殘留塊は幾つか認めることが出来る。

この準平原を成す石灰岩の地質構造は甚だ複雑なものであつて前述した二疊含炭層を推し被ふせた下部寒武利亞頁岩が北部にある様に此の石灰岩地中にも比較的古い層が新しい層の上に乗り上つて所謂衝上運動をした處が幾つもあるであらうと云ふことは中和圖幅の東部から其の東方に互つた山地で昨年私が豫察的な研究踏査をした結果からも推せるのである。一體衝上運動を盛にした處は大抵は高い山脈を形成して居る。それでこゝの準平原地も多分侏羅紀の初期には大きな山であつたらうと考へられる。この大山脈は今では老朽し盡した平坦面になつてしまつたのである。

地質は石灰岩であるが準平原の表面は大抵は赤い土で蔽はれ小高い處や頁岩で出來た小部分の處は小松のまばらに生へた草地になつてをる。赤土はかなり深い様で石灰岩は大抵谷側に露出して居る許りである。この赤土は勿論石灰岩の其場處で風化した殘留物である。此の赤土の土地は大概麥畑であるが大正九年平壤に製糖工場が出來て其の原料として甜菜が少し栽培せられる様になつた。石灰岩から出來た赤土は水分が多いと非常に粘ばるものである。もし夏の豪雨にでも遇つたものなら其のぬかるみと小流れに水が溢れることの爲めに通行は甚だ困難となる。私はこの平原の北東部で雨にあつて赤土の粘りついた旅行長靴スニーカーの重さに苦められ且宿についてから困難して赤土を洗ひ落して呉れた鮮童に厚く御禮をすることを餘儀なくされた。

一般に準平原が檢出されてもそれが何の作用で出來たか、即ち普通の風化浸蝕によつたものであるか、それとも海蝕アブレーション其の他によつたものかといふ問題は何時も起ることである。氷河作

用や風の作用でないことは我々の東洋では前提してもよい。こゝの準平原面の赤土上には處々に主に石英より成る圓礫が散在して居る。かゝる圓礫は獨り低き準平原許りでなく小高い頁岩地にも見受ける。而して地域の東方では海拔五十米位の位置に圓礫がある。想ふに之等は主要な河がこの平原面上を時代によつて種々の流路を取つて流れたものでなほ礫の原石は平南の奥地にある片麻岩地方から來たものである。それ故この準平原は普通の陸上平坦化面即ち剝削面であると云へる。

この準平原は汽車上からは力浦の北方香木里附近で最もよく見ることが出来る、そして部落は盡く準平原面になくて淺き谷の側方即ち傾斜地のすぐ際に位置する。其れ故準平原面上に立てば遠方の部落は目に入るとしても附近の部落は視界から逃れて了ふのである。

朝鮮にはなほ外に同様な準平原があるから私は殊にこゝに述べた大同江南畔の準平原地を名くるに漢の四郡の一つであり其の郡置が平壤附

近にあつた樂浪の名を採つて樂浪準平原と名付けたい。

中和より南方に丘陵を越えるところに亦矢張り橿圓の外廓を有する黃州の準平地がある。黃海道沙里院の東方鐵路に沿うて廣い石灰岩地があるがそこではまだ準平原化するまでに平坦でなく、老境に入る前の中老期の地形を示して凹凸がかなり多い。但しそこにはカルスト地形の標式的のものがあるから筆を改めて紹介することを期する。(中村)

大大阪の面積と人口

人口 百九十萬六千九百人

面積 六十五平方哩三三

本年四月一日より實施する大阪市接續町村(東成郡西成郡全部)編入後の十三の新區並に舊區の面積、人口、戸數に關し大阪府の調査したところに依ると左の如くである。(人口は舊市大正十二年末調査、新市國勢調査に據る)

地理教材としての地形圖

區別	面積(平方哩)	人口	戸數
北區	三、三二	一九八、〇一五	四二、三九四
此花區	三、八六	一五八、〇六八	三三、六〇三
東區	二、五七	一七一、五三七	三四、五〇四
西區	一、六五	一五三、七四二	二七、七〇八
港區	六、七九	二二九、八一四	四四、四二〇
天王寺區	一、六五	一四〇、二五三	二七、〇六六
南區	一、一二	一五六、一三一	二七、二八八
浪速區	一、四四	一八三、九七八	三五、八八九
西淀川區	六、五四	八八、八八六	二〇、三六〇
東淀川區	八、九一	一一三、一九〇	二六、三三一
東成區	一、五〇	一三八、七一九	三二、九四二
住吉區	一三、二〇	八九、七〇三	二〇、〇五三
西成區	二、七八	八四、八一四	二〇、三七九
舊區計	二二、四〇	一三九一、五八八	二七二、八七二
新區計	四二、九三	五一三、三二二	一一〇、〇六五
總計	六五、三三	一、九〇六、九〇〇	三九二、九三七

編入區域内の町村名は全部町名に改稱することになる、大抵各町村大字名をそのまゝ町名に改められたのが多いが、新五區内四十四個町村のうち、改稱される町名は大凡二百二十九である。